



居留地会議

THE FORMER FOREIGN SETTLEMENT OF KOBE

旧居留地連絡協議会 令和2年度の活動報告と 令和3年度活動計画

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のため、令和3年度の総会は7月1日に書面決議での開催とすることになり、7月21日に昨年度の活動報告及び今年度の活動計画と予算が承認されました。

都心づくり委員会

活動報告

- ◆都心づくり委員会開催
4月8日(電子開催)、6月10日(電子開催)、7月8日、8月12日、9月9日、10月10日
- ◆地区内建設計画・店舗計画の聴取、助言
セブンイレブン広告物、東遊園地図書館建設 他21件

活動計画

- ◆委員会の開催(毎月)
- ◆広報物対策
- ◆資源の発掘・整理
- ◆迷惑自転車対策
- ◆道路整備の考え方
- ◆広告物ガイドライン改定の検討

防災・防犯委員会

活動報告

- ◆防災・防犯委員会開催
7月21日、9月17日、10月16日、11月17日、12月17日、3月9日
- ◆防災福祉コミュニティ代表者会議(中止)
個別相談会に1名参加
- ◆市民防災リーダー研修
9月6日(日) 中央消防署 参加者2名
- ◆旧居留地防災訓練
11月17日(火)神戸朝日ビル アssenブリールーム 参加者(防災委員会委員のみ)
- ◎新型コロナウイルスの影響で中止したものの
防災マネージメント研修(新規養成研修)、市民救命士講習、メモリアルウォーク、防犯講習会

新会員募集

●入会のお問い合わせ、お申し込みは、
078-333-2444 大丸神戸店(事務局/柵・土池)まで
078-333-4111 ノザフ(事務局/古賀)まで

活動計画

- ◆委員会の開催(毎月)
- ◆防災福祉コミュニティ代表者会議
(中止、個別相談会に参加1名)
- ◆市民防災リーダー研修への参加
- ◆市民救命士講習会(中止)
- ◆旧居留地防災訓練(未定)
- ◆防犯講習会(未定)
- ◆メモリアルウォーク(未定)

広報委員会

活動報告

- ◆広報委員会開催
9月4日(火)、9月29日
- ◆広報誌「居留地会議」No.41発行
11月1日 2,000部発行
- ◆親睦会・イベント等の写真撮影・記録
7月-9月 Kobe Music Stage
11月-12月 居留地文化祭等
- ◆旧居留地連絡協議会WEBサイトの管理
- ◆旧居留地オフィシャルサイトの管理・運営
神戸旧居留地ブログ、イベント情報などを随時更新
- ◆情報発信事業
Kobe Music Stage(市立博物館1階ホール)/7月11日、8月8日、9月12日、12月20日
居留地文化祭/11月15日、11月22日、12月20日

活動計画

- ◆委員会の開催
- ◆広報誌「居留地会議」No.42発行(11月)
- ◆親睦会・イベント等の写真撮影・記録
- ◆旧居留地連絡協議会WEBサイトの管理・リニューアル
- ◆旧居留地オフィシャルサイトの管理・運営
- ◆情報発信事業(プロムナードコンサート、まちかどコンサート等)

環境委員会

活動報告

- ◆環境委員会開催
10月15日、3月18日
- ◆プランター維持管理契約
6月1日更新

- ◆放置自転車・バイク・警告タグ貼り
10月15日、3月18日
- ◆エコキャブ運動
11月12日
- ◆新型コロナウイルスの影響で中止したものの
クリーン作戦、ノーマイカーデー運動

活動計画

- ◆委員会の開催
- ◆プランター維持管理契約(6月1日更新済)
- ◆クリーン作戦(未定)
- ◆ノーマイカーデー運動(中止)
- ◆放置自転車・バイク・警告タグ貼り(未定)

親睦・イベント委員会

活動報告

- ◆親睦・イベント委員会開催
10月21日、12月7日、1月21日、3月24日
- ◆オンラインイベント
11月8日/おうちでオンラインバスツアー参加者25名(島根県「石見神楽鑑賞と現地旅行社による中継案内」)
- ◆新型コロナウイルスの影響で中止したものの
納涼会、バーベキュー、賀詞交換会、ボーリング大会

活動計画

- ◆委員会の開催
- ◆旧居留地名所説明会(オンライン)&スタンプラリー(予定)
- ◆賀詞交換会(予定)
- ◆ボーリング大会(予定)
- ◆納涼会(中止)

イベント情報 2021年11月以降

- ◆11月5日(金)
神戸旧居留地セレナーデコンサート
18:00~18:30 SMBC前
米本彩夏によるピアノ演奏
- ◆11月7日(日)
居留地文化祭
10:00~17:00
SMBC前、神戸朝日ビル1階
高校生による吹奏楽等
- ◆11月10日(水)
ランチタイムジャズライブ
12:10~13:00
SMBC前

旧居留地連絡協議会

神戸市中央区播磨町 30 大丸カーポート7 階
Tel.078-332-0151 Fax.078-332-0052



旧居留地は「働きやすい」が9割 「街並みが美しい」が理由

▲旧居留地について説明を受ける学生

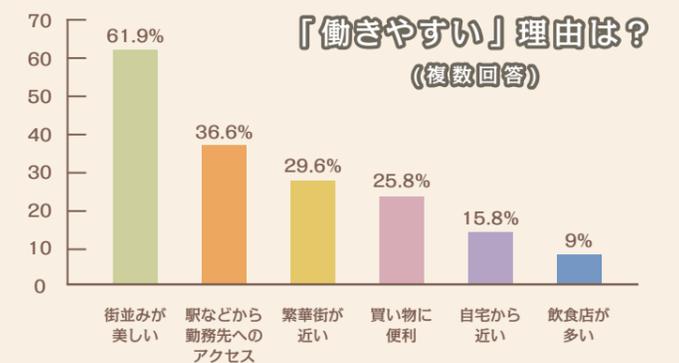
旧居留地で働く人々が地域の現状や課題についてどのように感じているかを調べるアンケートをこの夏、武庫川女子大学(西宮市)経営学部2年の学生たちが実施しました。回答したのはエリア内に勤務する466人。その結果によると、旧居留地は「働きやすい場所」と満足感を持つ人が極めて多く、理由として大半の人が挙げたのが「街並みが美しいから」でした。全体として景観を重視したまちづくりを高く評価し、愛着の強さがうかがえる結果となりました。

同時に学生たちが旧居留地内の人々を対象に行ったインタビューでは夜間の賑わいづくりや、将来も見据えた「居留地らしさ」の再定義などを課題として挙げ、辛口の意見もありました。

この取り組みは、武庫川女子大経営学部の必須科目「実践学習」の一環で、地域の現場に入って体験しながら学ぶプロジェクトです。参加したのは2年生の10人。1年間かけて現状の調査や、それに基づいた活性化などの施策の立案、イベント企画などを予定しています。

アンケート結果によると、旧居留地が「働きやすい場所」と答えた人は86.1%に上り、非常に高い割合でした。その理由(複数回答)として他を大きく引き離し「街並みが美しいから」(61.9%)が一番に挙げたのも、この地域らしい特徴でしょう。ほかの理由は「駅などからのアクセス」「繁華街に近い」「買い物に便利」などです。

「街並み」という理由の中にはこの地域の魅力やステータス(社会的地位)への評価などが含まれていると思われます。インタビューでの「(勤務する)ホテルのブランドイメージと地域の雰囲気と一致している」「神戸の中でもブランド力があるので、店の立地場所として最適」「旧居留地に立地していることで信用が得られる」といった意見はその反映でしょう。



さらに「『いい場所で働いていますね』と言われる」「若い女性などのリクルート面で有利」「大阪のビジネス街でも仕事をしているが、旧居留地の方がいいと思う」など、イメージのよさを実感している人は多いようです。

一方、「働きやすい場所ではない」と答えた人の理由で最も多かったのが「駅などからのアクセス」です。旧居留地が主要駅から近いかわりかはその勤務先のある場所にもよるのでしょうか、意見は分かれました。

◆街並み・雰囲気が高評価

「旧居留地の好きな点」(複数回答)では、「美しい街並み」「おしゃれな雰囲気」が圧倒的に多く、ともに7割余りの人が挙げました。これに続いて「落ち着いた雰囲気」「高級感・上品さ」「歴史が感じられる街並み」が4割を超えました。逆に少なかったのが「買い物の利便性」(7%)や「食事の利便性」(2%)です。

「どんな街であってほしいか」(複数回答)も同様の傾向で最も多かったのが「おしゃれな街」で約7割。続いて「高級感のある落ち着いた街」「芸術や文化の香りがする街」がともに5割余り、「歴史が感じられる街」も5割近くでした。

その理由などの意見では「景観や歴史を大事にしながら、より多くの人に親しみを感じてもらえるように」「オフィス街でありながらおしゃれで落ち着いた雰囲気の街並みは神戸市の財産」「活性化はしたいが、利便性だけを追求した街になってほしくない」など、雰囲気の維持を求める声が目立ちました。

一方で「古いものを残すだけでなく、新しい取り組みをしていく街でもあってほしい」「今のイメージを大切にしながら、オリジナリティーのある文化やふれあいの場になれば」「若い世代や観光客にも親しみやすい街に」といった注文もありました。

「こんな店や施設があったら(増えたら)利用したい」の質問では、「カフェ」「レストラン」「スーパーマーケット」「ドラッグストア」が多く、「書店・図書館」を挙げる人もいました。

◆ランチ難民？

アンケート全般で回答者が指摘したのは、旧居留地内に飲食店が少ないことです。オフィス街でもありますが、勤務者は外食できる場所を探すのに苦労しているのが現状です。

「出勤日の昼食」(コロナ禍での外出自粛要請がない前提)について「外食」の答えは2割しかなく、「持参する」「弁当などを購入」「社員食堂を利用」よりも少ない結果となりました。

さらに、外食する場所は「旧居留地内」がわずか34%で、エリア外が66%もありました。旧居留地のエリア内で食べない理由は「店が少ない」「値段が高い」「好みの店・料理がない」などです。

◆夜が寂しい

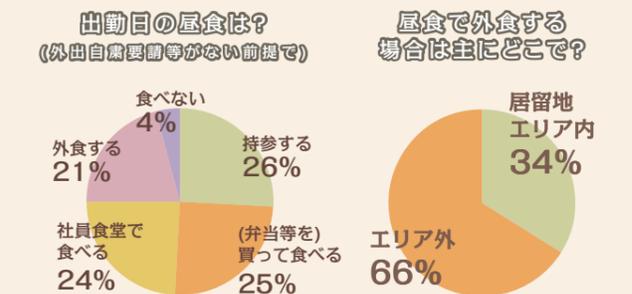
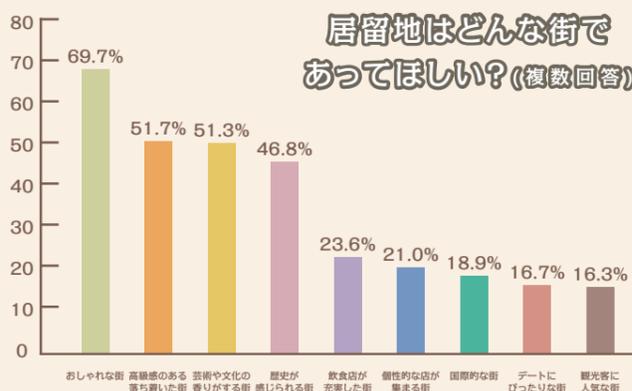
旧居留地への思いを記入する自由回答欄では、街並みや雰囲気の維持を求める意見のほか、「夜、静かになるのが早すぎる」「食を中心に夜のにぎわいに富んだエリアになってほしい」など、夜のにぎわいづくりに取り組むべきとの指摘がかなりありました。

「利便性よりも雰囲気を大事に」といった意見の一方で、活性化への要望も多く、「歴史を踏まえ、新しい文化の発信拠点に」「地域のポテンシャルを生かし切れていない。おしゃれスポットを点としてではな

く、面としてアピールできるように計画・整備してほしい」などの注文がありました。

また「歴史的建造物の維持のため行政などの支援を」「街のPRなどにもっとSNSなどの活用を」「ベンチや緑のあるスペースが増えたら」といった提案も寄せられました。

学生らを指導している武庫川女子大経営学部の山下紗矢佳専任講師はアンケートについて「予想通りの結果ではあるが、『旧居留地らしさ』の捉え方は、そこで働く人たちの間でも同じようで同じではないと感じた。『らしさ』は時代とともに変わる面もある。これからの世代に向けて、守るべきは何か、魅力をどうつくっていくのかを考える必要があるのでは」と話しています。



◇アンケートの方法と回答者の属性

旧居留地連絡協議会などを通じてメールで呼びかけ、7月9日から8月2日までインターネットを通じて回答する形で実施。回答者は、正社員83%▽契約社員10%▽役員4%など。業種は、金融・保険46%▽小売業18%▽公務員7%▽不動産業6%など。旧居留地での勤務年数は、5年未満57%▽5～10年15%▽10～15年10%▽15年以上18%。通勤時間は、30分～1時間58%▽1時間以上23%▽30分以内19%。

※アンケートの詳細は協議会のホームページに掲載しています。



ワーカーインタビュー

武庫川女子大生らは、アンケートと並行して旧居留地内の事業所・店舗・施設の関係者20人余りにインタビューし、現状や課題について聞き取りました。

現状についてはアンケート結果と同様に歴史を感じさせる景観、街並み、雰囲気などを評価する意見が多く出ました。一方で、夜間の人通りの少なさ、にぎわいに欠ける点など、課題の指摘も目立ち、将来に向けて新たな魅力づくりに取り組むべきとの注文が相次ぎました。イベント開催といった具体的な提案も出ています。

主な意見は以下の通りです。

旧居留地の評価

●宿泊・飲食

・ブランドイメージと旧居留地の雰囲気が一致するのでここに立地している。
・特別な場所と思って訪れる人たちを大切に、期待を裏切らないサービスを心掛けている。

●小売り・サービス

・上質の顧客が集まる場所。
・まち全体が同じ方向に向かって盛り上げていこうと頑張っている。
・協議会があり、コミュニティーができています。神戸の中でもブランド力がある。

●金融・保険

・近くに取引先があり、利便性がよい。
・「いい場所で働いていますね」と言われる。
・居留地に立地していることで信頼が得られる。

●教育・文化

・歴史の重みがある一方、今の流行を学ぶこともできる。
・以前はオフィス街のイメージが強かったが、震災後は路面店が増え洗練されたまちになった。
・雰囲気を保ちつつ神戸の魅力を発信していく義務を感じている。

課題と提言①

●不動産

・今のブランド力は限られた人がつくったもの。イメージが固まり、わくわく感に欠ける面がある。保守的なまちだ。今は「旧居留地らしくないもの」が将来は「らしいもの」になるかもしれない。「らしさ」の再定義が必要では。伝統を守りながら新しいものを取り入れる姿勢が大事だ。

・賃貸料の関係で1階に飲食店が少ない。
・近代・現代の魅力を伝えられるように。
・目的がなくても、ふらっと立ち寄れる場所にしたい。今は高級ブランドゾーンやアウトドアゾーンがあるが、例えばカジュアルゾーンのような新たなゾーンを増やしたい。

・一時的なイベントではなく、定期的なイベントが必要。例えばプロジェクション・マッピング、ファッションショーなど盛大な催しができないか。

●小売り・サービス

・夜に訪れる客が少ないし、子ども連れでは来づらい場所。
・飲食店が少なく、1日過ごせるような場所ではない。

・初めて来る人に場所を伝えるのが難しい。目印がない。
・旧居留地とはこういう場所とイメージできるものももっとほしい。

課題と提言②

●宿泊・飲食

・イベントの定期的な開催を。例えば夜にキッチンカーを並べたナイトマーケット、飲食店を食べ歩きや飲み歩きする街バルなど。
・旧居留地について説明するのが難しい。まちのPRポイントをまとめてほしい。

・個々の店や施設によるイベント、一時的なイベントではまち全体の活性化にはつながらないのでは。例えば(ライトアップした場所を歩く体験型のイベントの)ナイトウォークなどはどうだろう。

・歴史のある街であることを広めてくれる人を増やしたい。ガイドツアーなどで魅力を知ってもらふ必要がある。

・お酒を飲める場所など、夜の店が少ない。まちのイメージは悪くないが、発展性には課題がある。

・異人館街に比べても観光地としては成り立っていない。足を運んでもらえる工夫を。

●教育・文化

・きれいな街だが、遊びに行きたいと思うようなコンテンツが少ない。他地域での再開発などが進み、旧居留地が埋もれてしまわないか。

・若者たちにまちの魅力が伝わっていないのでは。

・看板設置に制限があり、場所を認知してもらうのに苦労する。



▲ワーカーインタビュー

来年2月16日にシンポジウム

学生たちは8月19日に高砂ビル100BANホールで、アンケート・インタビューの結果報告とそれらを踏まえた提案を「はいからプロジェクト実行委員会」(旧居留地連絡協議会内に設置)のメンバーに説明しました。来年2月16日には今回の結果や提案も活用してシンポジウムを開催、今後の旧居留地のあり方、まちづくりの方向性について意見交換し、ビジョンの共有や施策づくりにつなげていく予定です。



▲学生による報告会を開催 2021年8月19日